

水を大切にしよう

大淵 晴南

小郡市立 三国小学校

「えっ——。」

これがぼくが宝満川浄化センターで初めに思ったことでした。

「あんな、きたない水がともきれいになっている。」

ぼくはとてもふしぎに思いました。しよく員さんの、話をしばらく聞いてみると、「水をきれいにするには、び生物がとても活やくしているんですよ。」

ぼくはしよく員さんが何を言っているのか初めは分かりませんでした。またしばらく話を聞いてみると、「び生物の名前は活性汚泥という生物できたない水のごれを食べるんですよ。」

ぼくは頭はなぞに包まれました。

「活性汚泥——。よこれを食べる——。」

ぼくはしよく員さんの言っていることに頭が追いつかなくなってしまいました。すると、「みなさんの使った水のごれをび生物が食べ、よこれがなくなつた水は水しつ検査をし、本当に川に流してよいか調べてから川に流します。」と言ってしよく員さんがしせつを案内してくださいました。

ぼくはこのとき初めまったく分からなかった活性汚泥のことがほんのちよつと分かつたような気がしました。「まだじゆ業があるけど家に帰ったら家族みんなに伝えよう。」

しばらく見学をしていると、もう一つ初めて知った言葉は下水道と

いうものでした。下水道と言う言葉は知っていたけれど、その主なやく割は知りませんでした。ぼくは、下水道は大きくはないだろうと思つていましたが、地面の下に大きなしせつがあるということを知り、とてもびっくりしました。

ぼくは、この下水道のおかげでぼくたちの生活が安定しているんだなと思ひました。

もし下水道がなかったらと考えると川はきたなくなり生き物や森がなくなつてしまふかもしれせん。すると、いろいろなことが不便になつて生活も不安定になると思ひました。

水をきれいにする仕組みを知つたぼくは、「ぼくにできることがあつたらなんでもしよう。」と思ひました。そして、しよく員さんのおねがいを聞きました。「トイレトペーパーいがいはとけないので、トイレに流さないでください。油を流すと活性汚泥が死んでしまふので流さないでください。」

ぼくはこの見学を終えて、ぼくたちの小さな不注意が大きなことにつながるのだと思ひました。そして、活性汚泥、下水道があることでいろいろな人たちが安心して生活できるということが分かりました。

家に帰つて家族みんなにこのことを伝え家族全体で協力し宝満川浄化センター人達の活動をずっとわすれずに一日一日をすごしていきたいと思ひました。